

サルファイトカーリング剤の知識と技法

サルファイトと呼ばれるパーマは通常のパーマ剤と何が違うのでしょうか？

★今までのサルファイトは…

J.B.Cアカデミーが開発販売して来た、従来のサルファイト（カスタムセット・カスタムセットジェル）というのは、亜硫酸塩（亜硫酸ナトリウム=Na₂SO₃）を有効成分とするカーリング料です。よくワインに酸化防止剤として添加されたりしています。パーマ剤（医薬部外品）としては認可されませんが、化粧品としては利用できる原料であるため、パーマ剤という表示はなくとも、パーマ剤と同様の効果があります。この従来のサルファイトは通常のパーマ剤によるパーマにくらべ「異臭がない」「皮膚刺激性が少ない」「感触や艶を損なわない」といった長所があります。しかし、亜硫酸塩を有効成分とするカーリング料の反応は、通常のパーマ剤の有効成分であるチオグリコール酸やシステインとは多少違いがあり、使用方法にはいくつかの注意点があります。通常のパーマ剤が、1剤でシスチン結合を切り、毛髪に可塑性（形が変わりやすくなる性質）を与え、2剤で切れたシスチン結合を再結合させる、というシステムなのに対し、このサルファイトは加温するとシスチン結合が切れ、冷やすと再結合するという仕組みでウェーブができます。ただ、その反応性は穏やかであるため、丈夫な髪に強いウェーブを形成することはできません。そういう意味では損傷毛向きといえますが、気をつけなくてはならないのは、ウェーブ形成力が弱い割に、このサルファイトはpHが高く（約pH10）アルカリ度も4～6mlくらいあり、アルカリ分が非常に多い、ということです。ハイブリーチ毛や、何度も縮毛矯正を行ったような、アルカリに対する抵抗力の無いセンシティブ（敏感）な毛髪には不向きと言えます。

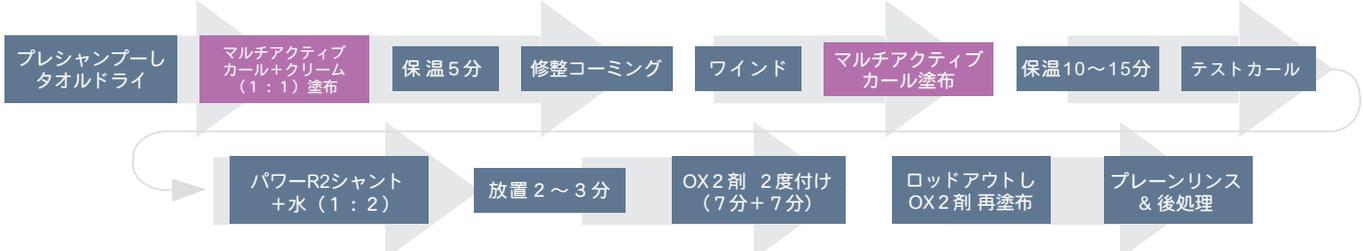
★今回のマルチアクティブシリーズは…

今回、開発販売したマルチアクティブシリーズは、従来のサルファイト（アルカリ性）とは違い、重亜硫酸ナトリウム（成分名=亜硫酸水素ナトリウム）という、酸性のサルファイトを使用しています。従来のサルファイトの主成分は別名“無水亜硫酸ナトリウム”と呼ばれ、水素を持たないという性質から“無水”と命名されています。（詳しくは裏面イラストをご参照ください）マルチアクティブシリーズに採用された重亜硫酸ナトリウムは、原料ベースではpHが3.5と低く、その状態で使用すると刺激臭や安定に問題があるため、今回pHが7.0の中性域になるように調整して販売しています。この状態だと殆ど刺激臭もなく、更に水素を持っているため、ウェーブ形成において、従来のパーマ剤とくらべ遜色の無いカールを形成してくれる訳です。勿論、他メーカーの様に更にアルカリを加え、高pHにすればもっとかかり具合も強くなるのですが、それではセンシティブな毛髪には使えなくなってしまうので意味がありません。今回は膨潤しないギリギリの中性域で販売させて頂きました。従来のサルファイトの持つ“しなやかさ”“感触の良さ”“モチっとした質感”などは変わらず、そのままに体感できる製品です。是非、この質感を様々な技術で体感なさってみて下さいませ。

J.B.Cアカデミー会長 外山 満

☆パーマ時の施術例（通常パーマ）

※全ての技術において、毛先のダメージ部は「パワーモイスター+」や「スピールクリーム」で保護して下さい



☆パーマ時の施術例（クリーブパーマ）



☆デジタルパーマ時の施術例（前処理還元ドライ技法）



☆縮毛矯正時の施術例

